FinePlay!!

～ 互 い に 助 け 合 う 集 団 に ～

豊中市立第五中学校
第３学年　６５期　No.33
２０１８年１２月１９日（水）

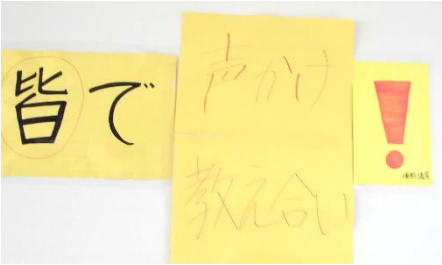
ゆきの選択を読んで

～クラスや学年の仲間のことをもう一度見つめ直して～

11 月の道徳の時間に「ゆきの選択」という読み物教材を読んで人権学習を行いました。苦しい気持ちになっていた人が、仲間からの支えで安心でき、前を向いていけるようになることを学びました。学習を終えた時に、今の 65 期生のクラスや学年に重ねて感想文を書きました。一部を掲載します。

65 期の顔を見られるのもあと４カ月を切ったので、少し遅い気もしますが、一日一日を大切にしようと思います。このメンバーでここまでこられたのも、仲間で支え合ったり、協力したりしたからだと思います。「ゆきの選択」の中で、ゆきが本当の気持ちを誰かに話すことで気持ちが軽くなり、明るくなった場面があったけど、65 期はこの話のように本当の自分でつながっていると思います。65 期で過ごす時間を大切にするために、人と話をしたり、協力したりすることを意識しようと思います。

私は、今回ゆきの選択で 65 期に照らし合わせてみました。65 期の中では差別というのは起きてはないなと思います。ですが、仲の良くない友達とは、冷たい対応をしているのをよく見ています。仲の良い友達と仲の良くない友達で付き合い方を変えているのは差別ではないけれど、少し近いような気がしました。人によって対応を変えるのは、あまり良くないから 65 期はみんなが笑顔で仲良くできる学年にしたいと思いました。



「皆で〇〇」というのに、皆で協力していきたい。議員を経験したけど、議員６人だけでは学年は変えられないと思う。皆でするのは難しいというのもあるけど、そこを頑張る人や皆でできるように色々な案を出して、それに向けて進んでいく人が増えることで、皆で〇〇ということが少しずつできていくと思う。でも、65 期にそのような人がいないわけではないけど、そのようじゃない人がたくさんいると思う。人ごとだと思っていなくても、自分が声かけしてもとか、自分だけしなくても、とか思っている人がいると思う。注意や声かけの仕方もだるそうな顔をするのは、皆でというよりも自分が早く帰りたいという気持ちが強いと思う。皆でしたいのなら、注意の仕方も変わっていくと思う。議員だけじゃなくて、「皆で」協力して、「皆で〇〇」という目標を達成したい！

障がいを持っている人や、差別を受けている人は周りで暮らしている私たちよりも何倍も辛い思いをしていると思う。だから、差別や偏見をするのではなく、より多くの人とつながることの方が大切だと思った。そのためには自分の考えを改め、他の人と自分の関係を再確認しようと思う。また、今の 65 期は自分も入れて暴言を他人に吐く人が多い。それで傷ついている人もいるかもしれないから、気をつけようと思う。

「ゆきの選択」を読んで、一人で悩んでいても仕方がなく、誰かに相談することが大事なのだと思った。他人から見た自分の悩みへの意見を聞くことで色々な見方が増えて、処理しやすくなるし、気持ちも軽くなる。実際自分も悩みは違うけれど、似たような状況で友達や家族に話をして気持ちが落ち着き、幾度も助けてもらった。だから、今度は自分が誰かを助けられるような存在でありたい。残された少ない日数でたくさんの悩みや不安が押しかかる時間に差しかかっている今、一人で友達を悩ませたくないと思う。悩みを共有するだけで、グッとその重さは小さくなる。そのことを改めてよく学んだ。この時間を無駄にしないよう、余裕の少ない気持ちのどこかに必ず他人を気遣える心を持っていたい。

私は、今回のゆきの選択は素晴らしいと思いました。部落差別という限定された範囲の悩みをゆきさんは持っていましたが、私たち 65 期は受験が近づき、また高校に進学してからの不安におおわれ、もう逃げ出す寸前まで追い詰められている人もいるかもしれません。その中で、ゆきさんのように真剣に向き合おうという考えに至るためには、それを受け止めている、経験している人の言葉と共に同じことに向き合おうとしている仲間が必要です。一人で悩みに挑むことは精神的にとても難しいことです。常に素晴らしい選択をみんなができるように共に悩み、向き合い、挑み、支えられるような人になれたらすごいなと思いました。そのためには、みんなが何に悩んでいるのかつまり相手のことを知らなければなりません。そして、相手のことを知るには、相手に信頼されなければいけません。そして、相手のことを思って行動しなければなりません。常日頃から頼られ、周りのことを考えて行動できる人になるために、積極的に行動していきたいと思います。

１１月に男女共生教育の講演をしてくださった保健所の方が作成された文章を裏面に掲載していますので、読んでくださいね★